

《V 学生支援》

【入学に関する支援について】

- (1) 入学者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学の案内等の印刷物を添付して下さい。

建学の精神については、学生便覧や本学の学校紹介用のパンフレット及びHPの学長メッセージの中にも明示しているところであるが、建学の精神それ自体を明確にわかりやすく示すことは、十分になされているとは言えない。教育目標・目的については大学案内の各学科紹介ページに記載しているが、教育方針・望ましい学生像は大学案内には十分示されているとは言えない。今後一層、見る側に具体的に伝わるよう留意していく必要を感じる。(9ページも参照)

- (2) 入学志願者に対し、入学選抜の方針、選抜方法(推薦、一般、AO入試等)をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

本学入試要項においては、まず入学試験実施方法として本学の入試制度を示している。各入試区分毎の説明は、日程、募集人員、出願資格、選考方法についてといった内容を中心に記載している。また、本学では、募集要項のほかに入試ガイド(入試データ編・入試問題編)を作成している。この入試ガイドにより、入学選抜内容および過年度の入試問題について解説をしている。入試選抜についての主旨が具体的に示されているかについては、今後一層募集要項において具体的に伝わるよう留意する必要があるが、本学主催入試説明会、オープンキャンパス、キャンパス見学会といった行事と合わせて十分な伝達に努めている。

- (3) 広報及び入試事務についての体制(組織等)の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

本学では、平成10年4月に、盛岡大学・盛岡大学短期大学部の入学試験実施および大学・短期大学部の学生募集広報を所掌する「入試センター」を組織し運営にあたっている。

本学入試業務は、教員の校務分掌である入試センター所長1名、入試センター副所長1名、事務部門6名を中心に担当する。入試広報及び各区分毎の入試業務の一切を行っている。入試広報活動と入試の実施は一体の関係にあり、学生募集から、各種説明会への参加、オープンキャンパス、キャンパス見学会、土曜見学会、個人の受験生による見学まできめ細かく対応し、常に情報を共有することが各入試において生かされていると思われる。

また受験生からの問い合わせに対する対応や大学案内・入試ガイド等の刊行物の作成、学内用の入試説明マニュアルの整備も入試センターが担当している。

- (4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

①推薦入試

願書受付・・・入試センターにおいて出願資格、出願書類、提出書類の不備等の点検を行い、受付を完了した者には受験票を返送する。その後コンピューターへの入力処理を行う。また専任教員による書類審査担当者が受付書類（一般推薦、特別推薦）を点検する（特に、コンピューター入力後の出力データとの突き合わせ及び、特記事項等の確認）。

試験・採点業務・・・面接試験は各科、入試区分（一般推薦、特別推薦）ごとに専任教員が二人一組で担当する。採点は採点基準に定める各項目毎に採点し得点とする。小論文採点は出題担当者（複数）及び各科の採点委員（複数）が受験番号、氏名を伏せた上で採点基準に基づき行う。

合否判定・合格通知・・・入試委員会で各科、入試区分毎に総点順に並び替えた資料を用い合格判定基本方針をもとに合否判定案を作成した後、教授会に諮り議決を得る。その後受験生に対して、合格通知を発送するとともに、学内掲示板に合格者の受験番号を掲示する。合わせてホームページ上に参考情報として発表する。

推薦入試の合否結果は受験生の同意の下、出身高校にも通知している。

②一般入試

願書受付・・・入試センターにおいて出願資格、出願書類、提出書類の不備等の点検を行い、受付を完了した者には受験票を返送する。その後コンピューターへの入力処理を行う。また専任教員による書類審査担当者が受付書類（一般入試前期、後期）を点検する（特にコンピューター入力後の出力データとの突き合わせ及び、特記事項等の確認）。

試験・採点業務・・・面接試験は各科、入試区分（一般入試前期、後期）ごとに専任教員が二人一組で担当する。採点は採点基準に定める各項目毎に採点し得点とする。学科試験採点は出題担当者（複数）が受験番号、氏名を伏せた上で採点基準に基づき行う。

合否判定・合格通知・・・入試委員会で各科、入試区分毎に総点順に並び替えた資料を用い合格判定基本方針をもとに合否判定案を作成した後、教授会に諮り議決を得る。その後受験生に対して、合格通知・不合格通知を発送するとともに、学内掲示板に合格者の受験番号を掲示する。合わせてホームページ上に発表する。

③社会人入試

願書受付・・・入試センターにおいて出願資格、出願書類、提出書類の不備等の点検

を行い、受付を完了した者には受験票を返送する。その後コンピューターへの入力処理を行う。また専任教員による書類審査担当者が受付書類（社会人特別選抜前期、後期）を点検する（特にコンピューター入力後の出力データとの突き合わせ及び、特記事項等の確認）。

試験・採点業務・・・面接試験は各科、入試区分（社会人特別選抜前期、後期）ごとに専任教員が二人一組で担当する。採点は採点基準に定める各項目毎に採点し得点とする。小論文採点は出題担当者（複数）及び各科の採点委員（複数）が受験番号、氏名を伏せた上で採点基準に基づき行い、平均点を得点とする。

合否判定・合格通知・・・入試委員会で各科、入試区分毎に得点順に並び替えた資料をもとに合否判定案を作成した後、教授会に諮り議決を得る。その後受験生に対して、合格通知・不合格通知を発送するとともに、学内掲示板に合格者の受験番号を掲示する。合わせてホームページ上に発表する。

（５）合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

合格者に対して、入学までに必要な書類の送付とその説明、本法人の寮の案内、キャンパス周辺のアパートの情報提供を行っている。また、推薦合格者には、導入教育としてレポート課題を課し、提出されたレポートは専任教員で分担して点検し入学後の指導の参考になっている。

（６）入学後（入学前を含む）、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

①新入生オリエンテーション

入学式の翌週、二日間で、「入学生オリエンテーション」を実施している。その概要は以下の通りである。

- ・学長又は短期大学部長による講話（建学の精神等について）
- ・学生部ガイダンス（学生生活の留意事項、各種届出事項、奨学金、保険、ロッカーの使用等）
- ・学科ごとに教務委員による教務事項（学則、シラバス、時間割、単位修得方法、免許・資格、履修方法等）
- ・専任教員の紹介とゼミの説明
- ・学外実習ガイダンス
- ・図書館ガイダンス
- ・HR（自己紹介、クラスリーダーの選出、各種委員会委員の選出、新入生特別研修の説明等）

- ・ ネットワーク利用ガイダンス
- ・ 生協ガイダンス

②新入生特別研修

約入学二週間後に一泊二日で、「本学の教育方針について理解深め、新入生相互及び新入生と教員の親睦を図り、本学の学生であるという自覚を深め、有意義な学生生活に役立てる」ことを目的とした研修を、それぞれの学科毎に各クラス担任、学生部職員が参加して実施している。主な研修内容は以下の通りである。

- ・ 各学科に関連した県内施設の見学
(食物栄養科は「東北農業研究センター」、幼児教育科は「県立美術館」と「子ども科学館」)
- ・ 科長講話 (学生生活について)
- ・ 犯罪被害防止セミナー (岩手県警より派遣)
- ・ 消費者被害防止セミナー (消費者生活センターより派遣)
- ・ 卒業生と語る
- ・ 食物栄養科では「栄養士の仕事について」
- ・ 幼児教育科では漢字テストや就職活動について

③二年生に対してのオリエンテーション

- ・ 履修ガイダンス (学生部)
- ・ 国民年金ガイダンス (社会保険事務所より派遣)

【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

入学時のオリエンテーションについては、前述の『【入学に関する支援について】の(6)』の通りである。学期ごとについては、一年次の後期、二年次の前期、二年次の後期それぞれの開始期に、学習についての問題点の説明やそれに伴う履修変更等の指導を教務委員の教員と学生部が連携して行っている。

(2) 学習や科目選択のための印刷物 (学生便覧を除く) があれば参考資料としてご準備下さい。

資料として、シラバス、教員紹介、登録用紙 (OCR用紙)、時間割 (コード表付き)、登録変更届を用意する。

(3) 基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

食物栄養科では、一年次前期に開設している教養科目の「基礎化学」を一年生全員に履修するように指導し、化学に対する基礎学力の向上に努めている。

幼児教育科では、各学年で漢字検定2級程度の漢字テストを年3回程度実施し、基礎学力の向上に努めている。また、ピアノ初心者に対して、教養科目の「音楽Ⅰ・Ⅱ」を履修するように指導し、演奏技術の向上に努めている。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。

本学では、学生部と教務委員会が連携しながら学習上の指導助言を行う体制をとっている。さらに、学習上の問題や悩みについては、クラス担任、ゼミナールの担当教員等からも指導助言を得られる体制を整えている。教務委員会、学生委員会、科会議等を、毎月定期的に開催し、学生指導上の問題を共有化し、連携を密にしている。

(5) 進度の早い学生や優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

実施していない。

【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を示して下さい。

学生部は、教員と職員で組織され、学生生活と厚生補導、教務事項等に関する支援を行っている。

また、本学では、学生の自治活動である学友会活動をサポートするため、教員が学友会各部の顧問を担当し、学生部職員が事務的なサポートを行っている。学園祭やスポーツ大会、課外活動等の支援を行い成果を上げている。

さらに、大学生協と連携し、各クラスから選出された2名の代議員と教員から選出された代議員が協力して、学生生活支援のための生協活動の支援を行っている。具体的には、短大周辺の安全・医療マップの作成、アパートや日常生活での事故補償、灯油販売などである。大学生協への加入率は、その年によって変動はあるが8割前後となっている。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短大祭等）の実施状況、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

クラブやサークルなどのクラブ活動は、同一キャンパスにある盛岡大学と合同で活動しており、現在学生部で把握している体育系クラブが約23、文化系クラブが約13、サークルが約13となっている。このうち、アートサークル、ネイチャーゲームサークル、茶道部など、短大生のみで活動しているクラブ・サークルも存在する。また、近隣にある岩手県立大学や外部団体と協力して活動している学生もあり、クラブ活動等の活動状況は総じて活発で、ソフトボール部など一部のクラブは全国レベルで活躍している。

学友会は各クラスから、委員2名が選出され、その委員の中から学友会会長、副会長、庶務、書記、会計が選出され、組織的に活動している。学友会執行部を中心に活発に活動している。なお、学友会各部と活動内容は、次の通りである。

①執行部

学友会全体の運営と、学園祭や卒業を祝う会などの行事を担当。

②宗教部

建学の精神を具現化する宗教行事の企画など。毎週行われる礼拝の準備やクリスマス礼拝などを担当。

③研究文化部

学友会の機関誌である『道程』の企画と編集、発刊を担当。

④健康体育部

スポーツ大会の企画と運営を担当。

⑤課外活動部

クラブ、サークル活動の支援。

学友会の活動は、前述した組織が十分に機能しており、盛岡大学と合同で開催する学園祭やクリスマス礼拝などは、ほとんどの学生が参加し、顧問の助言や指導を受けながら成功を納めている。また、短大生のみで開催するスポーツ大会は、クラス対抗で二日間にわたって実施され、この行事にもほとんど全員の学生が参加し盛況である。

なお、学園祭は、前述したとおり盛岡大学と合同で二日間にわたって実施され、短大ではクラスごとの企画、ゼミナールの企画、学友会独自の企画など多数の企画が催されている。学園祭も、クラス担任、ゼミナールの教員が指導・助言を行い、学生部の職員が支援している。

卒業を祝う会は、卒業生有志で実行委員会を組織し、学生部職員の指導・助言のもと、自由参加ではあるがほぼ全員の参加で実施されている。

また、地域交流の一環として、盛岡の夏祭り「さんさ踊り」に実行委員会を組織し、大学生と合同で参加し、最優秀賞（平成18年、平成20年、ただし平成18年は熱演賞と称していた）や優秀賞（平成19年）などを獲得し、例年優秀な成績を収めている。短大からは、毎年、100名前後の学生が参加している。

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置概要について記述して下さい。なお、訪問調査の際にご案内いただきます。

学生の休息のための施設として、盛岡大学と共同利用であるが、盛岡大学生協が運営している学生食堂と一教室を利用した部屋を設けている。昼食時間以外は、自由に利用できる。また、短大独自に短大棟にある一教室を自習室として自由に利用できるようにしている。

保健室は、大学と共同利用の保健室2室、短大用に一室の計3室用意している。共同利用の保健室には非常勤ではあるが、保健師が1名常駐している。もう一室は「何でも相談室」と称し、非常勤のカウンセラーが1名配置され、週一回カウンセリングを行っている。

食堂は、前述したとおり、盛岡大学生協が学内の施設で昼食を提供している。

売店は、同じく盛岡大学生協が運営する店舗が敷地内に設けられている。

また、生協店舗や食堂、自習室、体育館などに自販機コーナーを設け、飲料水の提供を行っている。

(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋体制、通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）の概要を示して下さい。

法人が経営する学生寮「盛岡大学学生会館」を有している。全室個室で、女子237室、男子71室の計308室で、学生食堂、ランドリー、学生ホール等の設備を設置している。例年、90%を越える利用率である。管理人が常駐し、会館の管理運営に当たっており、安全管理を徹底している。短大生は、平成18年度が99名（256名中）、平成19年度が92名（274名中）、平成20年度が92名（276名中）が入寮した。

下宿・アパート等の斡旋は、主に「盛岡大学生協」が行っている。

通学は、キャンパスが盛岡市の郊外にあり不便であるため、路線バスの通らない区間に、スクールバスを走らせ通学の便宜を図っている。また、約410台が駐車できる駐車場と駐輪場を設置している。

(5) 平成20年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学部独自の奨学金等あればその概要を記述して下さい。

①外部奨学金

日本学生支援機構奨学金	第一種奨学金（無利子）	59名	
	第二種奨学金（有利子）	216名	合計275名

②学内奨学金

盛岡大学短期大学部特別奨学生（学業・スポーツ等に秀でた者）

一年次前期・後期・二年次前期それぞれの時期に、各学科2名で、8万円か5万円

を給付。金額は成績の順位によって決定し、年間延べ12名に給付。

盛岡大学短期大学部奨学生（学資負担者の死亡・罹災・失業等による経済的困窮者）

一口10万円で、最高4口までを給付し、若干名の募集となっている。平成20年度は、10万円が4名、20万円が1名であった。

盛岡大学短期大学部同窓会アネモネ会奨学金（学業成績、人物とも良好な経済的困窮者）

2年次生を対象に一人10万円で、2名までに給付。平成20年度は、2名に給付された。

（6）学生の健康管理、メンタルヘルスやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。

1年次生は、4月に内科検診、視力検査、身長・体重測定、尿検査と胸部X線撮影を、2年次生は3月に視力検査、身長・体重測定、尿検査、胸部X線撮影をそして4月に内科検診を実施している。大学・短大共用の保健室に保健師が常駐し、健康相談等に当たっている。さらに、保健室の隣に「なんでも相談室」を設け、心理学系の大学教員がメンタルヘルスやカウンセリングに当たっていたが、平成20年12月より非常勤の臨床心理士を配置し、週一回メンタルヘルスやカウンセリングに当たる体制に整えた。なお、引き続き大学教員も相談に当たっている。

また、入学時に全学生が「学生傷害保険」に加入し、傷害補償に対応している。

AEDを短大校舎入り口と体育館入り口に設置している。

（7）学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらをどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

本学では、学生個々の情報の記録として、学生カード、学籍簿、指導要録を学生部で保管している。

①学生カード

入学時に記載してもらい、学生部で保管し、事務室内で関係者のみ閲覧のみとしている。記載事項は、入学・卒業年次、学科、学籍番号、氏名、性別、生年月日、出身高校、本籍地、現住所（入学時の住所・電話番号、変更時の住所・電話番号）、帰省先住所・電話番号、保護者氏名・勤務先・勤務先電話番号・住所・電話番号、退学・休学・復学の日付、高校時代の課外活動、特技・免許、家庭の状況（家族の氏名・続柄・年齢・職業・勤務先・学校名）、現住所付近の略図、通学方法等である。

②学籍簿

学籍簿は、在学中は担任が保管し、卒業後は学生部で保管している。閲覧は、事務室内のみとしている。記載事項は、学科、学籍番号、氏名、性別、顔写真、出身高校、その他の学歴、本籍、現住所、保証人の氏名・現住所・勤務先、入学年月日、入試区分、卒業年月日、取得資格、就職先、学籍異動、特記事項等、である。

③指導要録

指導要録は学籍簿の裏面となっており、取り扱いは前述の通りである。記載事項は、学科、学籍番号、氏名、家族構成（続柄、氏名、年齢、職業・勤務先・就学状況）、人物の長所・短所、自覚している性格や能力、趣味・特技、健康の状況、免許・資格、卒業後の連絡先、担任の所見等である。

【進路支援について】

（１）下の進路状況表を例に、過去３ヶ年（平成１８年度～２０年度）の就職状況を学科等ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

過去３ヵ年の進路状況について、学科別に以下のようにまとめた。
参考資料として、求人件数、専門職求人内訳、就職状況前年対比、就職決定先業種・職種・地域別内訳表を訪問調査時に準備する。

①食物栄養科

栄養士、および栄養教諭（二種）を養成する課程である。
ほとんどの者が栄養士免許を取得して卒業している。栄養教諭は年におおよそ３０名前後のものが取得している。ここ数年は、栄養士の委託会社の採用が増えたため、専門職に就職する割合が増加傾向にある。

平成１８年度～平成２０年度 食物栄養科の進路状況表

平成２１年３月３１日現在

	１８年度	１９年度	２０年度
a 卒業者数	１１４人	１０９人	１０６人
b 就職希望者数 b／a	９９人 86.8 %	９９人 90.8 %	８８人 83.0 %
c うち学校で斡旋した就職者数 c／b	７８人 78.8 %	８４人 84.9 %	６７人 76.1 %
d うち自己開拓分の就職者数 d／b	８人 8.1 %	５人 5.0 %	１０人 11.4 %
e 就職未決定者 e／b	１３人 13.1 %	１０人 10.1 %	１１人 12.5 %
f 進学・留学者数 f／a	６人 5.3 %	６人 5.5 %	５人 4.7 %
g その他無業者数 g／a	９人 7.9 %	４人 3.7 %	１３人 12.3 %

※各年度の「g その他無業者」は、多くが家事手伝いである。

②幼児教育科

幼稚園教諭（二種）、保育士を養成する課程である。
ほぼ全員が幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得し、就職希望者の多くが幼稚園、保育所に就職している。また、系列の４年制大学に編入するものが毎年１０数名いる。

本学の特徴として、専門職に就職する割合が高く、目的意識を持って入学していることがわかる。

平成18年度～平成20年度 幼児教育科の進路状況表

平成21年3月31日現在

	18年度	19年度	20年度
a 卒業者数	185人	175人	167人
b 就職希望者数 b/a	162人 87.6%	158人 90.3%	144人 86.2%
c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	146人 90.1%	139人 88.0%	127人 88.2%
d うち自己開拓分の就職者数 d/b	10人 6.2%	11人 6.9%	9人 6.2%
e 就職未決定者 e/b	6人 3.7%	8人 5.1%	8人 5.6%
f 進学・留学者数 f/a	17人 9.2%	13人 7.4%	16人 9.6%
g その他無業者数 g/a	6人 3.2%	4人 2.3%	7人 4.2%

※各年度の「g その他無業者」は、多くが家事手伝いである。

(2) 学生の就職を支援する組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状について記述して下さい。

本学では、学生の一般職、専門職および公務員への就職支援を行うために、教員組織としては就職対策委員会、事務部門としては就職センターが設置されている。学生に対する就職支援は、就職対策委員会を中心として各教員と就職センター職員が連携して行っている。

教員組織として就職対策委員会は、各学科の卒業年次担任教員(計5名)により、学生の進路指導、就職斡旋等、就職・進学に関する事項について協議している。委員長は就職センター副所長がこれを兼ねている。

就職支援業務を遂行している就職センターは、就職センター所長1名(大学教員)、副所長1名(短期大学部教員)のほか、課長1名、係長1名、主事2名の計4名の職員で構成され、就職指導、求人企業の開拓、就職・進路相談、就職関連講座の主催等、学生の就職・進学活動を全面的に支援している。

支援体制としては学生の個性や適性に応じた職業を自ら選択できる能力の育成や学習能力を高めるために「キャリアガイダンス」「就職対策講座」という二つの講座を開講している。「キャリアガイダンス」では、具体的に始まる就職活動に備えて自己分析と自身の適性を把握する必要性を理解させる一方、スキルアップを図りながら学生が各自の進路を考え、就職活動が円滑に進むように指導している。「就職対策講座」では、基礎学力の向上をめざし、論文対策と一般常識を取り入れている。両講座とも外部講師に依頼して、1年生後期から2年生前期にかけてカリキュラムに組み入れて実施している。正課外の講座ではあるが、カリキュラムに組み入れて実践している短大は少ない。学生の出席カードの

コメントをみると、概ね好評であり、出席率も良い。その他には、公務員を志望する学生の支援として外部講師を依頼して「公務員対策講座」を行っている。

その他には保護者を対象とした「就職懇談会」を年2回開催している。就職状況や求人情報などを提供するだけでなく、学生の個々人の進路相談にも対応しながら、保護者にも理解と協力を求め、学生の進路のサポートをさらに強化できるよう力を入れている。

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

就職情報の提供は、就職センター内にある資料、就職掲示板、携帯電話等で行っている。

就職センター内にある資料は、求人票(業種別、職種別)、過年度における採用試験受験報告書などの資料の他に、新聞、雑誌、図書、DVD等を備え、インターネット接続パソコン、面接室の設備がある。学生の利用は自由で、センター職員の勤務時間内(午前8時30分～午後6時)に利用することができる。

掲示板は、求人票については就職センターそばに掲示板を設置している。就職関連については学生用掲示板を利用している。

求人票については、掲示板だけではなく就職対策委員にも提供して学生の指導にあたっている。また、携帯電話を利用して情報提供や進路相談を行っている。

(4) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

本学では、学生が自分の適性や進路について自ら考え、就職活動に主体的に取り組めるように就職センターが中心となり、就職対策委員会と連携を取りながら支援している。栄養士、栄養教諭、幼稚園教諭、保育士の資格に結びつく就職、そして一般職の求人にも力を入れてきた。

過去3年(平成18年度～20年度)の平均的な就職率は、食物栄養科が約85%、幼児教育科が約95%、短大全体で約90%を維持している。

学科別に見ると、食物栄養科では栄養士が約50%、幼児教育科では、幼稚園教諭約15%、保育士約75%の合わせて約90%が専門職員として就職している。

食物栄養科については、栄養士の求人件数の減少や委託や派遣を敬遠する傾向が見られ、一般職を希望するものも多い。その中で、一般企業でも食品に関連のある企業を選択するなど専門職に関わる企業を選択する傾向が強い。

幼児教育科については、ほとんどが専門職に就職している。入学当初から専門職を目指していることがうかがえる。

しかし、残念ながら毎年数名の学生が未就職の状況にある。学生の就職に対する意欲はさまざまで、学生の就職に対する意識には個人差がある。早い時期から就職意欲を持って積極的に活動して就職内定をもらう学生もいれば、就職意識が低く、就職活動の開始が遅

れ、思うような結果が得られない学生もいる。カリキュラムに取り入れている「就職対策講座」「キャリアガイダンス」の講座で就職に対する意欲を高めるとともに、就職対策委員会をはじめとする教員と就職センターが連携をとりながら、就職を支援強化することが必要と考える。

(5) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の進学（四年制大学、専門学校等）及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述しなさい。

卒業後の大学、専門学校への進学を希望するものに対しては、編入対策講座担当者が中心となり、教員および就職センター職員が個別相談や資料を提供して行っている。

進学実績については(1)の就職状況で報告しているが、大学、専門学校の進学は例年少数である。幼児教育科の進学者は、例年ほとんどが盛岡大学児童教育科に進学している。海外留学に関する学生からの相談実績はほとんどなく、海外留学者もいない。

【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。
なお、学生数はいずれの年度も5月1日現在とします。

本学では、それぞれの学科で、若干名の募集ではあるが社会人入試を年2回（11月の推薦の入試時と3月の後期一般入試時）行っている。試験は、小論文と面接を実施している。例年、別表の通り各学科に数名、社会人が入学している。社会人学生の勉学に対する姿勢は、他の学生に好影響を与えている。なお、社会人に対する特別な支援は、行っていない。

科目等履修生は、本学卒業時に資格に関わる単位が未修得で、卒業後資格取得を目的としている場合が多い。

その他、留学生・帰国子女・障害者・長期履修学生の応募はなく、従って在籍者はいない。

多様な学生の受け入れ状況

(平成18年度～20年度)

種別		18年度	19年度	20年度
留学生	食 栄	0	0	0
	幼 教	0	0	0
社会人	食 栄	2	4	5
	幼 教	4	2	2
帰国子女	食 栄	0	0	0
	幼 教	0	0	0
障害者	食 栄	0	0	0
	幼 教	0	0	0
長期履修学生	食 栄	0	0	0
	幼 教	0	0	0
科目等履修生	食 栄	0	0	3
	幼 教	0	0	0

(数字は、人)

【特記事項について】

- (1) この《V学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

本学では、卒業式時に、成績優秀であった者各学科それぞれ2名、さらに学友会活動や課外活動で顕著な功績を示した者を副賞を添えて表彰している。

また、個人情報保護への取組みとして、7年前に「後援会名簿」として在学生全員の名前、保護者、住所等を作成していたのを廃止し、学生指導上必要なときのみ事務室内での閲覧に限定している。

本学は、9割以上が女子学生であるので、セクシャル・ハラスメントに対する規定を設け、防止に努めている。